

令和4年度第1回八千代市環境審議会会議録

日時	令和5年3月22日(水) 午後2時～午後3時53分	場所	八千代市福祉センター 4階 第3・第4会議室
議題	(1) 議題 ・会長及び副会長の選出について (2) 報告事項 ・八千代市第3次環境保全計画について ①八千代市第3次環境保全計画の進行管理について ②八千代市第3次環境保全計画等の見直し等について ・八千代市環境経営レポート(令和3年度実績)について (3) その他		
出席者	小倉 久子 (学識経験者:元千葉県環境研究センター水質環境研究室長) 谷合 哲行 (学識経験者:千葉工業大学先進工学部教育センター准教授) 馬上 丈司 (学識経験者:千葉エコ・エネルギー株式会社代表取締役社長) 風岡 修 (学識経験者:千葉県環境研究センター地質環境研究室主任上席研究員) 黒澤 京子 (事業者代表:八千代市農業委員会委員・八千代市農地利用最適化推進委員) 猪又 祥策 (事業者代表:八千代市工場協議会 習志野化工株式会社 管理部部長) 高橋 邦博 (市民委員) 岡本 哲夫 (市民委員) 田中 麻美子 (市民委員) 堀田 寿佳子 (市民委員) <p style="text-align: right;">以上10名</p>		
公開又は 非公開の別	公開		
傍聴者	傍聴0名(定員5名)		
事務局	服部八千代市長 浅倉経済環境部長 環境保全課 7名 (山崎課長, 日下主査, 竹内主査, 加茂主査補, 青野主査補, 野島主任主事, 大山主任主事)		

事務局（山崎環境保全課長）

会議成立の報告・欠席委員の報告・マイクシステムの説明・傍聴人の報告

事務局（山崎環境保全課長）

それでは、会議の開催にあたりまして服部市長よりご挨拶申し上げます。

服部市長

みなさんこんにちは。八千代市環境審議会にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。ありがとうございます。

また委員の皆様は、再任も含めまして昨年6月から新しい任期に入っております。重ねて、委員を引き受けていただいたことに感謝を申し上げます。

今回の会議は、令和3年3月に策定をされました八千代市第3次環境保全計画の策定後、初めての対面形式の会議となりますので、よろしくお願ひしたいと思ひますが、後ほど事務局の方から「八千代市第3次環境保全計画について」及び「八千代市環境経営レポートについて」報告させていただきます。環境問題は八千代市のみならず非常に大事なテーマだと思ひますので、委員の皆様には忌憚のないご意見をいただきまして、意見具申をお願ひできればと思ひます。

それでは、以上簡単でございますけれども、ご挨拶に代えさせていただきます。これからもよろしくお願ひいたします。ありがとうございます。

事務局（山崎環境保全課長）

本審議会委員は今年度改選されております。そのため、初対面の方々もいらっしゃることで、ここで委員の皆様にご自己紹介をお願ひしたいと思ひます。会議の時間に限りがありますことから、おひとり1分半程度でお願ひいたします。それでは、小倉委員から反時計周りによりしくお願ひいたします。

小倉委員

小倉久子と申します。元県庁職員で、定年になってからもう10何年経ちますが、定年の少し前から、この審議会に関わらせていただいております。よろしくお願ひいたします。

谷合委員

谷合と言います。千葉工大で教員をやっております。よろしくお願ひいたします。

馬上委員

千葉エコ・エネルギー株式会社代表の馬上でございます。もともと千葉大学でエネルギー政策の研究をしておりまして、審議会には10年ぐらい前から関わらせていただいております。再任させていただきましたので、引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。

風岡委員

千葉県環境研究センターの風岡と申します。基本的に地面の中の色々な問題や災害関係を専門としております。よろしくお願ひいたします。

黒澤委員

黒澤と申します。八千代市の農地利用最適化推進委員をしております。私も初めてのことで、何か役に立てることがあるのかわかりませんが、よろしくお願ひいたします。

堀田委員

堀田寿佳子と申します。八千代市に住んで40年ぐらいで主婦をしております。よろしくお願ひいたします。

田中委員

田中です。水産会社に勤めているので、「環境」という意味では地球温暖化ですとか、仕事上も気になったりしているところがあるので、それを八千代市と絡めて考えていけたらいいなと思っています。よろしくお願いします。

岡本委員

岡本哲夫と申します。八千代市に住んで40年近くなりますが、八千代市の勝田台地区というところの社会福祉協議会の支会長をやっております。仕事は引退しましたが、民間の建設コンサルタント会社で、洪水から地下水から水質汚濁といった水関係の仕事を40数年やってきました。今回このような機会がありましたので、参加させていただいております。よろしくお願いいたします。

高橋委員

高橋邦博と申します。皆さんにお力を借りることもあるかもしれませんが、私なりの経験が生かされればなと思っています。仕事は30年ほど、郵便事業をやっていました。その後は3～4年ほど海外に赴任しまして、日本と海外の違いが少しわかるので、そういった部分で何かお力になればなと思ひ参加させていただきました。よろしくお願いいたします。

猪又委員

猪又祥策と申します。習志野化工株式会社という塗装の会社で取締役を務めておりまして、常に環境に配慮した塗料ですとか考えながら経営しております。初めての参加ということで、わからないこともございますがよろしくお願いいたします。

事務局（山崎環境保全課長）

ありがとうございました。次に、事務局職員の紹介をさせていただきます。

--- 事務局職員の紹介 ---

事務局（山崎環境保全課長）

ここで服部市長におかれましては、公務のためここで退席をさせていただきます。

続きまして、本日配布いたしました資料の確認をお願いいたします。

--- 資料の確認 ---

事務局（山崎環境保全課長）

それでは、次第に基づき会長及び副会長の選出に移らせていただきます。議事の進行は「八千代市環境審議会規則」第3条第1項の規定により、会長が行うこととなっておりますが、本審議会は昨年6月の改選後、初めての会議でありますことから、会長が選出されておられません。会長が選出されるまでの間、経済環境部長の浅倉が仮議長として議事を進行させていただきましたと存じますが、皆様よろしいでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

事務局（山崎環境保全課長）

ありがとうございます。異議がないようですので、浅倉経済環境部長、議事進行をよろしくお願いいたします。

事務局（浅倉経済環境部長）

それでは会長が選出されるまでの間、議事進行をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

します。「八千代市環境審議会規則」第2条第1項の規定により「審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定める」となっておりますことから、委員の皆様のご意見を頂戴したいと思います。はじめに、会長の選出を行います。どなたか推薦あるいは立候補はございませんでしょうか。

谷合委員、お願いします。

谷合委員

推薦ですが、この審議会で長く会長を務められていた経験もございますので、小倉委員を会長として推薦したいと思います。

事務局（浅倉経済環境部長）

ありがとうございます。ただいま谷合委員から小倉委員に会長をお願いしたいとのご推薦がございましたが、皆様いかがでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

事務局（浅倉経済環境部長）

ご異議なしということですので小倉委員、お受けいただけますでしょうか。

小倉委員

ご推薦ありがとうございます。私であればやらせていただきます。

事務局（浅倉経済環境部長）

ありがとうございます。それでは、会長を小倉委員をお願いいたします。

これからの議事進行につきましては、八千代市環境審議会規則第3条第1項の規定に基づき、小倉会長に務めていただきたいと思います。小倉会長、こちらの議長席に移動いただきまして議事の進行をお願いいたします。また一言ご挨拶をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

小倉委員

それでは改めまして、小倉でございます。ただいまご推薦いただき、会長を務めさせていただくことになりました。皆様のご協力あってのという大前提でございますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

では、議事を続けたいと思いますが、次に副会長の選出がございます。八千代市環境審議会規則第2条の第3項に「副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。」と規定されております。副会長になっていただける方、どなたかいらっしゃいますでしょうか。

お声がないようですので、私の方から今までずっと相棒として一緒にやっていたている谷合委員を推薦したいと思います。いかがでしょうか。

谷合委員

はい。よろしく申し上げます。やらせていただきます。

--- 拍手 ---

小倉会長

では、副会長は谷合委員ということで決めさせていただきます。谷合副会長からご挨拶をお願いいたします。

谷合副会長

改めまして副会長を任命されました谷合といたします。

実は、今日の午前中も船橋市の環境審議会の方に出ておりました。そちらでは大規模な環境

破壊に繋がるような開発が行われていて、バタバタとした審議会をさばいてきたところです。八千代市では、そのようなことはおそらく起こっていないと思っておりますが、一方でゼロカーボンシティ宣言をされましたので、千葉県でも全国的にも、どうやって目標に到達するのか、具体的な達成目標へのスケジュールリングみたいなものが今まさに課題となって挙げられてきているところであり、明確なロードマップを立てなければいけない時期に当たっているかと思っております。市民や、我々学識者や、地元の企業の方たちも一丸になって、この問題に取り組まないと達成できませんので、そういう建設的な議論ができる場になったらいいなと思っております。よろしくをお願いします。

小倉会長

ありがとうございました。ちょうどIPCCから第6次の報告書が出たばかりで、さて八千代市はどうするのかというところだったので、今日の会議は本当にタイミングがいいと思っております。来年度になるかと思っておりますが、良い計画・実効性のある計画・行動計画などを作っていただけたらと思っております。

もう1～2点、報告事項の前にお諮りしたいことがございます。まず1つ目は、会議録の作成方法で、今までやっておりますように要点記録方式で作っていききたいという事務局の意向がでございます。それをご承認いただけますでしょうか。

--- 異議なしの声あり ---

小倉会長

ありがとうございます。それから、会議録署名人として、署名をして確認していただくお役目が2人必要ですが、その署名人は議長が指名するということになっております。本日の会議録署名人は、高橋委員と堀田委員にお願いしたいと思っておりますが、受けていただけますか。

--- 高橋委員・堀田委員 了承 ---

小倉会長

ありがとうございます。では高橋委員と堀田委員、よろしくお願いたします。

では本題に入ります。本日の議事は報告事項が中心ですので、ご説明の後、ご質問のある方は遠慮せずに出していただければと思います。

その前に事務局から、会議室の関係で午後4時までというご指示が出ておりますので、ご協力よろしくお願いたします。短時間で効率よく進められればと思っております。では、「八千代市第3次環境保全計画の進行管理について」事務局よりご説明をお願いいたします。

事務局（青野主査補）

◆資料「八千代市第三次環境保全計画の進行管理について」に沿って報告。

・「八千代市第3次環境保全計画」とは、本市の環境保全に対する総合的かつ長期的な施策・事業を示す計画のことで、「八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン」とは、「八千代市第3次環境保全計画」を推進するにあたり、同計画に記載された基本施策に基づく具体的な活動内容及びその担当課を明確化した計画。

・「1. 事業計画調査」について。「八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン」は令和3年度に策定したことから、計画対象期間である令和4年度から令和7年度の各年度について事業計画調査を実施。調査結果については、量が多いことから、個別の説明は割愛し、資料「令和4年度『八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン』に関する調査結果」の「各年度の事業計画」という列を参照。

・「2. 事業実績調査」について。令和3年度については「八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン」の計画対象期間外となっているが、参考記録として「施策内容に関する調査」と「指標に関する調査」の2種類について調査を実施。

1つ目の「施策内容に関する調査」は担当課ごとに、施策内容について、「実施した」「一部実施した」「実施しなかった」の3段階で評価を記入。資料「八千代市第3次環境保全計画の進行管理について」では、基本方針や基本施策ごとの担当課の延べ数と評価、割合について

まとめた表を掲載。全体の実施状況については、担当課の延べ数は500件、内、評価が「実施」となっているものが259件、「一部実施」となっているものが134件、「実施無し」となっているものが107件となっており、「実施」又は「一部実施」とされているものの割合が79%となった。詳細は資料「令和4年度『八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン』に関する調査結果」の「R3年度実施結果【対象期間外のため参考記録】」列を参照。

2つ目の「指標に関する調査」については、「八千代市第3次環境保全計画」に掲載された37の指標について令和3年度の実績を調査。すでに目標を達成しているものが30%、目標達成に向けて進んでいるものが30%、数値が停滞しているものが11%、数値が後退しているものが27%となった。

資料「八千代市第三次環境保全計画の進行管理について」2ページ「(2) 指標に関する調査」については、グラフの左の文章中、「28%」を「27%」と資料訂正。

・「3. 区域施策編の削減目標に対する現状」について。「八千代市第3次環境保全計画」に包含されている「八千代市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」の目標値に対する状況について記載。「地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」とは、市域における温室効果ガスの排出量削減等を推進するための総合的な計画のことを指す。

CO₂の削減状況については、全体では、平成25年度比で令和元年度の排出量の割合は93.1%となっており、6.9%削減することができた。しかしながら産業部門、特に製造業で増加している他、自動車の貨物でも増加が見られるという結果になった。

小倉会長

ありがとうございました。ただいま説明のなかったところでも気になることなどあれば、どなたでも結構ですのでご発言ください。

谷合副会長

前期アクションプランに関する調査結果で、バツがついているところを中心にお聞きしたいことがございます。前半のゼロカーボンシティ絡みのところは、まだ出始めたばかりということではほとんど丸ですが、17ページはバツが多くなっています。コロナ禍で動けなかったところもあるかと思いますが、真ん中の「多自然川づくり等の検討」というところが、現時点で該当する事業がなかったとなっています。「今後高野川の改修を行う予定ではあるが護岸の詳細設計は数年先となる」とありますが、実際にやる前の段階からしっかり情報収集して、この「多自然川づくり」をやっていただきたいと思います。また、パブリックコメントもやる予定のようですので、今後の審議会の中で取り上げなければいけないところかと思いますが、他に予定されていることがあれば教えていただきたいというのが1点目。

19ページの「公民館事業」ですが、やはりここもコロナの影響を受けて、なかなか講座ができずバツが入っているわけですが、八千代市にはほたるの里があり、今後かなり環境教育や色々な形の校外学習が戻ってくるのではないかと思います。その辺りの状況をお聞かせいただきたいというのが2点目。

3点目は、今日来られている方の中にも地域の企業の方がいらっしゃるかと思います。21ページの「地元企業や大学と連携し、環境と関連したビジネスの推進」について、実際のゼロカーボンアクション・ゼロカーボンを実現するために地元の産業分野からの排出量をどれだけ抑えていけるのか。行政側もそうですし、市民として関われる部分だと思いますので、コシヒカリを流通させるみたいな話も書かれています。もう少し足元というか、実現可能な地元のビジネスとの繋がり合いみたいなところをご説明いただければと思います。

小倉会長

ありがとうございました。それでは事務局から、お願いします。

事務局（竹内主査）

ではお答えいたします。

最初の高野川の改修事業の関係ですが、現状ではこちらとして把握しているものは、この件以外にはありません。今後、その辺りについては庁内調整を図りながらやっていきたいと思

ます。

2点目の公民館事業の関係ですが、ご承知のとおり、公民館に限らずコロナの関係で色々な事業が縮小されています。19ページ目の下から6つ目、大和田公民館には二重丸がついているかと思いますが、大和田公民館ではここ2年、夏休みに定期的に里山保全に関する講座を子ども向けにやっていたりしており、我々も自然環境の大切さというようなところをお話させていただいております。ほたるの里に関する記載はありませんが、屋外施設ですので、公民館とは違い、コロナ禍でも屋内でやる講座に比べてリスクは多少なりとも少ないということで規模は縮小されたりはしたものの、ここ数年も順調に行っているというのが実情です。

3点目の産業関係との連携というところですが、先ほどの説明の中で二酸化炭素排出量の関係で、家庭部門等においてはそれなりにマイナスにはなっておりますが、産業部門に関しては、残念ながら少し増えています。行政側としても、再生可能エネルギーに対しては家庭用の蓄電池やエネファームに対する補助金は一定のものが出ていておりましたが、産業部門との連携に関しては我々もあまり手をつけてこなかったというのは認識しております。この後にも少し出てきますが、計画を見直していく中で事業者の方との意見交換というか意見聴取みたいなものを通じて、現状やニーズを確認し、進めていきたいと思っております。

谷合副会長

先ほど大和田公民館の話が出てきましたが、他ができていなくて大和田公民館だけできているというのは何か特殊な事情があるのでしょうか。

事務局（竹内主査）

特殊な事情と言っているのかはわかりませんが、大和田公民館は指導員の方が熱心というか、私共への積極的な働きかけがあったというところではあります。大和田公民館に関しては、まだ本決まりではありませんが、来年度も定期的に講座を実施するつもりです。他の公民館に関しても、全くやっていないわけではなく、単発でそういったお話をすることはありますし、こちらからもお願いはしております。

谷合副会長

担当者ベースであり、組織的に何かサポート体制ができていないわけではないということですね。そこは、うまくいっている事例を他の公民館とも共有し、活性化していけるといいなと思います。情報共有ができていれば、1ヶ所でうまくいき始めると他でも広がっていくと思いますが、情報共有ができてないと、個人的な動きになってしまいがちですので、行政の中でも情報共有をよろしくお願いします。

小倉会長

ありがとうございます。環境教育などは、ある1ヶ所の1回のイベントでたくさんの人数をというよりも、面的に色々ところで数多く開催され、そこで少しずつでも参加者がいるというのが理想だと思います。これからWithコロナでコロナの制約がなくなっていくので、期待したいと思います。

3点目については、これから行動計画・アクションプランの見直しをする際には、ぜひ企業との連携や市民のできることを増やすとか、そういうところに力を入れていただければいいなと思っています。

新任でこういう会議に慣れていらっしゃる方でも、市民感覚でのご発言、一主婦としてとか、一市民としてのご発言がとても大事だと思いますので、遠慮なさらずに手を挙げてください。

岡本委員

最初の多自然型川づくりの件ですが、これは佐倉市との市境を流れている高野川のことでしょね。佐倉市側が川沿いを埋めて宅地化したのを見ているのですが、ここは準用河川区間ですか。

事務局（山崎環境保全課長）

はい。八千代市の管理部門が土木建設課なので詳しい説明はできませんが。

岡本委員

かなり上流の水源の方が埋め立てられ宅地化されています。多自然型川づくりと言っても、何を求めるかというのが、非常に難しいところだと思います。魚類の保全を考えてやるのか、ただ環境的にコンクリートで固めてとかではなく、見栄えがよくて人が近づけるようなものにするのか、選択肢もかなり幅広い区域だと思います。

このまま放っておくと大変なことになりそうな地域なので、ぜひ力を入れていただけたらと思います。印旛沼に繋がっているの、維持管理など先を見通して生態系の調査等もやっていく必要があると思います。

小倉会長

ありがとうございます。動き出してしまうとそれを食いとめるのは難しいわけで、環境サイドとしては動き出す前の段階で、魚のためにこういうことを注意して作るよう提言を出すことなどはとても大事だと思います。まだ時期が来ていないからバツにするのではなく、ぜひ注視しておいていただきたいと思います。

ではこんなところでよろしいでしょうか。また後でご質問いただいても構いませんので、次に進みたいと思います。

事務局（青野主査補）

◆資料「八千代市第3次環境保全計画等の見直し等について」に沿って報告。

・「1 背景及び目的」について。令和3年3月に「八千代市第3次環境保全計画」を策定し、同計画の中に盛り込まれた「八千代市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に2030年度、市域からの温室効果ガス排出量を2013年度比で22%削減することを目標として位置付けた。しかし、策定直後の令和3年4月に菅前総理大臣が2030年度に2013年度比で温室効果ガス排出量を46%削減する旨を表明したため、本市の目標値が国の目標値と大幅にずれ、早急な見直しが必要となった。

・本市は令和2年12月にゼロカーボンシティ宣言をしており、2050年温室効果ガス実質排出量ゼロを目指して取り組んでいく必要があることから、いつまでにどのような取り組みで、どれだけ温室効果ガスを削減し、実質排出量ゼロを達成するのか示したロードマップの策定が必要となっている。

・八千代市議会からも目標値の見直しやロードマップの策定について早期実現を求める声が上がっているほか、他自治体でも目標値を見直した例が出てきており、千葉県も今年度中に地球温暖化対策実行計画を見直す予定となっている状況を受け、区域施策編の削減目標等、脱炭素に係る内容について、「八千代市第3次環境保全計画」を関連計画とともに見直すほか、「（仮称）八千代市地域脱炭素ロードマップ」等を策定する。

・「2 見直し・策定の内容」について。「八千代市第3次環境保全計画」や関連計画について脱炭素に係る箇所を中心に見直すほか、本市における2050年までの温室効果ガス削減の道筋を示したロードマップ等を新たに策定する。

・「3 その他」について。計画等の見直し等にあたり、事業者と委託契約を締結し進めており、令和4年11月に委託料を予算化し、指名競争入札で令和4年12月23日に株式会社サンワコンと契約を締結した。事業の履行期間は令和4年12月24日から令和6年3月29日までとなっており、次年度いっぱいかけて行う予定。

小倉会長

「八千代市第3次環境保全計画」の策定時に国からの具体的な方針が出されていなかったため、具体的な温暖化対策が盛り込まれておらず、国の方針が出たらすぐに市レベルの対策も考えるという条件付でこの計画を承認したという経緯がございます。

今回ここに書いてあるのは2030年度までに46%削減ということですが、IPCC等の計画では、これでは駄目だとすでに言われており、46%減と言わずにもっと先取りして、市

民レベルでどんどん計画やロードマップを作っていければいいと考えております。

具体的な作業は来年度ということになるとと思いますが、この審議会に専門家もいらっしゃることで、しっかりしたものを作っていければいいなと考えております。

馬上委員

2点、まず確認とコメントでございます。

1点目は、広島でG7の会合が予定されておりますが、おそらくそれに前後して環境大臣会合等で今回のIPCCの計画を踏まえた気候変動対策目標の見直し、G7各国の再エネ導入目標を2035年には再エネを含めた脱炭素化を先行して先進国は達成すべきであるという方向になってきております。当時、菅前総理の発言で国の方針が一気に変わった経緯がありますが、今回また同じことをやってしまうようでは、非常に手間がかかってしまうのではないかと思います。各国が出してくる目標値がかなり先取りされていて、日本政府もそれに応じて目標値を変えてきているのは事実ですので、少し予測的に動いていただくことが必要ではないかなと思っております。

もう1点、ご説明いただいた資料の中で各計画を新規策定から全面改定まで挙げていただいておりますが、おそらく新任委員にはこの計画の相互関係や上下関係が全くわからないと思います。今回は無理かもしれませんが、各計画がどのように関係しているか、あるいは何が変わると他の計画にどう影響するのかというのは今一度整理していただいた方がいいのではないかなと思います。特に、地域脱炭素ロードマップというものが出てくる中では、おそらく従来の計画では全く想定していなかった項目、あるいはもう脱炭素というのはある種、定量目標を示すということですので、今回経営レポートの中でもかなり抽象的な話が多かったのですが、それを全部数字に落とすかどうかということも含めて議論が必要かと思います。審議会としての議論をもう少し深めるためにも、各委員の皆さんに理解していただきやすい資料の整備をお願いできればと思います。

事務局（山崎環境保全課長）

ご意見ありがとうございます。今のご意見を参考にさせていただいて、また次回の審議会等の資料作成の際には検討して参りたいと思います。

小倉会長

馬上委員、お答えそれでよろしいですか。

馬上委員

そうですね、これからすべて検討すると思っておりますので、その点は取り組んでいただければと思います。よろしく願いいたします。

小倉会長

馬上委員から数値化目標というような話も出ましたが、先ほどご説明のあった二重丸・丸・バツというのは、温暖化なら温暖化脱炭素のために検討する項目がはっきり決まっているので、それを達成するためにやらなければいけないことをしっかり入れ込まないといけないのではないかと思います。

現状の個別目標を見ていると、実際にやらなければいけないことはわかるけれども、とりあえず達成できそうな目標を作っているのではないかなという節がちらちら見当たります。これでは全部二重丸になったとしても、どのくらい対策が進むのか心許ない気もしますので、しっかりそのゴールを達成できるような目標、そのためのロードマップを作っていかなければいけないと考えております。

風岡委員

12ページのデータの話ですが、「八千代市の気象」というところで気温の推移が出ておりますが、観測点がどこなのかを教えてくださいたいのですが。都市化の影響なのかわかりませ

んが、かなり温度上昇が大きいもので気になりました。

小倉委員

これは八千代市消防本部のデータではないのでしょうか。

事務局（竹内主査）

今お話いただいているのは、「八千代市の環境経営レポート」でよろしいですか。

風岡委員

はい。

事務局（竹内主査）

環境経営レポートの12ページは、消防本部からの情報提供になっており、実際に観測しているのは消防本部の方になります。

風岡委員

降水量のデータもお持ちだと思うのですが、それについてもいただけるのでしょうか。

事務局（竹内主査）

降水量の件に関しては、基本的に持ち合わせていないという認識ですが、確認をして次の機会にでも回答させていただきます。

小倉会長

では、「第3次環境保全計画等の見直し等について」のご説明についてのご質問はもうよろしいでしょうか。

次に、環境経営レポートのご説明をお願いいたします。

事務局（野島主任主事）

◆「八千代市環境経営レポート（令和3年度実績）について」に沿って報告。

・「八千代市第3次環境保全計画」は市域全体の話となるが、ここでは八千代市役所が一事業者として取り組んでいる環境負荷低減に関する取り組み等による令和3年度実績について報告させていただきます。

・八千代市役所の事務事業における自らの環境負荷低減と地域の環境保全に向けた取り組みを継続的に実施するシステムの構築・運用を目的とし、市独自の環境マネジメントシステムである八千代市環境経営管理システムの運用が令和3年度より開始された。

・「八千代市環境経営マニュアル」において、「年1回程度、環境経営目標の達成状況等を環境審議会において報告する。」と定められていることから、「八千代市環境経営レポート（令和3年度実績）」を使って、環境経営の目標の達成状況等に関わる部分を中心に報告する。

・6ページの本市の地球温暖化防止に向けた目標は、令和3年3月策定の「八千代市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）」において、温室効果ガス総排出量（二酸化炭素換算）を、6年間で基準年である令和元年度比6%以上削減することを掲げている。

・7ページの表6では、エネルギー等の利用状況が確認できる。令和3年度は前年度と比較し、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、令和2年度より実施していた小・中学校、各公共施設における休業や業務縮小が緩和され、エネルギー使用量に増加傾向がみられたが、公園灯のLED化などにより電気使用量が減少した。

・エコドライブの推進、本庁舎等でのノー残業デーの完全実施、節水機器の導入、LED照明等の省エネ化、廃プラスチックや資源物の分別収集の徹底等の八千代市環境経営管理システムによる取組により職員意識のさらなる向上も見られ、ガソリン、灯油、LPG、水道、コピー用紙使用量の5項目において目標を達成した。

・9ページの表7、令和3年度温室効果ガス排出量内訳では、発生要因ごとの温室効果ガス

(二酸化炭素換算)を確認できる。内訳は表8のとおり。

・令和3年度の温室効果ガス総排出量を発生要因別に比較すると、総排出量の4割以上を占める電気・燃料等のエネルギー使用を起源としたCO₂排出量は基準年度と比較すると、約2%減少しており、一般廃棄物焼却量を起源としたCO₂排出量は総排出量の5割以上を占め、基準年度と比較すると、約4%減少している。削減目標値である6%削減を達成するためにも、総排出量の5割以上を占める一般廃棄物のさらなる減量が求められることから、4R活動の推進が必要となっている。

・同じく表9、八千代市グリーン購入適合調達率となる。令和3年度は92%の調達率となり、目標の100%に向け更なる推進が必要。

・10ページ、再生可能エネルギー・省エネルギー設備の導入状況と業務における取組となる。業務における取組は、毎年度、市全体の環境活動目標と部署ごとの業務に則した独自の環境活動目標をそれぞれ設定し、達成に向けた取り組みを実施。表10で目標の達成状況が確認できる。

・一部、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、実施できなかったイベントや関連する業務の増加等により達成が困難となった目標が見られた。

小倉会長

ありがとうございました。それでは、ご質問は11ページ以降も構いませんか。

岡本委員

10ページの「その他」のLEDのところですが、八千代市も10年までは経たないかもしれませんが、街路灯をすべてLEDにしました。八千代市には、ものすごい数の蛍光灯がありましたが、ほとんどがLEDになっているので、こういうのもカウントに入れたらすごい数字が出てくると思います。

どこの部署が担当かわかりませんが、以前は各自治会等で負担していた電気料金に対して補助金を出していたと思いますので、以前の使用量がわかると思います。それをLEDに替えてどのぐらい減ったかとかカウントすると非常に大きな数値として出てくるのではないかと思いますので、わかるのであれば参考までに入れたほうがいいのかと感じました。

小倉会長

8ページは公園の明かりのLED化をしたということですが。

岡本委員

市の街路灯もすべて今LEDに替えておりますので、すごい数のLEDが設置されています。割と近年のことですが、市でやっている事業としては非常に大きな効果として挙げられるのではないかと思います。

事務局（竹内主査）

基本的には、お配りしている環境経営レポートが令和3年度実績ということで、令和3年度に行った公園のLED化を記載しております。防犯灯に関しては、それより以前にLED化されていると思いますので、その部分に関しては表に反映されております。例えば公共施設等においては、まだLED化されていない部分も残っておりますので、そういったところを順次行っていくことによって電気使用量削減に繋げてまいりたいと考えております。

小倉会長

家庭の対策として、蛍光灯をLEDにするというのはすごく効果が大きいと言われておりますし、市でできることとして、街灯などのLED化というのはとても効果が大きいのではないかと思いますので、ぜひこれからも進めていただければいいかなと思います。

馬上委員

10ページの「(4) 再生可能エネルギー・省エネ設備の導入」と11ページの「(1) 温室

効果ガスの排出量算定に関する排出係数」についてお伺いしたいと思います。

1点目が10ページの再生可能エネルギーのところですが、太陽光発電設備の設置施設。私も長く委員を務めさせていただく中で、そろそろ経年劣化や更新がかかるようなものはないかというのが気になっております。やはり設置して10年を超えてきますと、何らかの改修やメンテナンスを要する機器が出てきますので、単純に設置したのではなく、すべての設備がまだ計画とおりの発電をしているか、性能を発揮しているかという点はお伺いしたいと思います。

それから11ページの温室効果ガス排出量の算定について、電気部門でPPS事業者（特定規模電気事業者：東電などの既存電力会社以外で、特定規模以上の大口事業者などに電力を供給する）が5社挙げられており、こちらについては市が契約している施設に供給している事業者だと思っておりますが、それぞれこの事業者がどこに供給をしているか皆さん知りたいところではないかと思っておりますので、この辺りはできれば記載していただけると良いと思っております。

小倉会長

事務局いかがですか。

事務局（竹内主査）

まず、太陽光発電の経年劣化等のお話ですが、平成10年代後半ぐらいから設置しているようなところがあるようです。ご指摘のとおり、今のところは不具合があつて機能を果たせていないという報告はこちらに上がってきていませんが、そういったことを考えていかなければいけない時期に差し加かかっているとは思っています。今後我々も追いかけていきたいと思っております。

事務局（野島主任主事）

PPS事業者につきましては、資産管理課で一括契約を行っておりますので、どちらの施設にどの電力会社が契約しているのかはこちらで把握しております。このレポートに載せるかどうか検討してまいります。

小倉会長

よろしく申し上げます。

岡本委員

太陽光発電は八千代市でもかなりの数がついていると思っておりますが、その数を把握されているかどうかということと、馬上委員が言われた耐用年数の件で、私も補助金がない14～15年前から設置しておりますが、やはりここ数年はパワーコンディショナーが壊れてしまい、修理を頼んでも莫大なお金がかかるので、業者さんからやめたらというような意見を言われております。いわゆる太陽光パネルでない部分の劣化がかなり進んでおり、我が家でも5ヶ月ぐらい部品が来ないので、結局すべてを借りかえることになりました。設置時の初期費用だけでなく、経年的に費用がかかってくるので、非常にたくさんの太陽光発電が動いていると思っておりますが、これから先また減っていくこともあるので、各家庭についているものも把握しておいたほうがいいのかと感じます。

小倉会長

太陽光に関しては設置時のことだけしか注目されておりましたが、人間と同じように年を取ってくると色々メンテナンスが必要になってくると思うので、マイナスの要素が増えるということも最初から考えておかなければいけないということですね。

事務局（竹内主査）

メンテナンスに関しては、確かに重要な視点かと思っております。今まで行政側としてもどちらかということと設置に対する補助にはそれなりに取組んでいるかと思っておりますが、決してそれがつけっ放しにならないように何らかの対策を考えていきたいと思っております。

また、どこにどれだけ設置されているかについては、公共施設であれば情報を集約しておりますが、正直なところ各家庭レベルまでについては把握が難しいかと思っております。補助金を支給

したところに対してのデータは我々も持っていますが、補助金を使わないで設置したところまではデータを持っておりませんので、そこをどのように把握するのかは検討の余地があると思います。

小倉会長

これから色々対策を立てていく際に、一般家庭の再エネの状況というのは実態を把握しておく必要はあると思いますので、引き続きよろしく願いいたします。

谷合副会長

資料8ページのご説明にもありましたが、一般廃棄物焼却量はここ数年でかなり増加しています。これは八千代市に限ったことではなくて全国的な現象です。

一方で、焼却処分場に併設して発電施設を設け、バイオガス発電など焼却という行為をエネルギーに変換していくところはかなり出てきております。

八千代市の規模でどれだけペイできるかはわからないところはありますが、この廃棄物処分と合わせて発電をしたり、食品廃棄物のようなものを再エネの一部としてバイオガス発電したりするというプランを導入すると高い省エネ効果に繋がります。売電することも内部消費することもできると思いますが、何かプランがあれば教えてください。

事務局（竹内主査）

何年にこれをという具体的な予定は持ち合わせておりませんが、当然ながらその焼却施設に関してはどこかの段階で更新がかかるようなものですので、今言われたようなことも盛り込んでいかなければ、そもそもゼロカーボンも達成できないと思います。その辺りも留意していきたいと思います。

谷合副会長

実は午前中の船橋市の環境審議会はペーパーレスでした。資料は全員にPDFを配布し、パソコンを持っていない人にはタブレット端末が用意されており、紙は一切配らないという形で会議を行いました。テクニカル的にはできない話ではないと思いますし、庁内でかなりのコピー用紙も出るかと思しますので、こういう審議会の席ではペーパーレスが目指せるといいかなと思います。

小倉会長

本当にそう思います。7ページのコピー用紙使用量の目標が達成率100%となっていますが、横ばいで十分満足してしまっているような目標設定の仕方はいかがなものかという気がいたします。

谷合副会長

逆に紙を木質バイオマスの1つとして利用し、ここから発電をするから紙の使用量を減らさないという考えもあります。当然、ペーパーレス化に対応できない人たちもたくさんいらっしゃいますので、そういう人たちに対して紙の資料は出すが、使った紙は全部資源として発電に使うから紙は減らせませんというやり方を取るという選択肢もなくはないと思います。

小倉会長

個人的には減らせるだけ減らして、どうしても減らせない部分はそういう形を取るという考え方かなという気がします。

谷合副会長

もちろん、それぞれの市のやり方があるかと思いますが、ペーパーレスについてもご検討いただければと思います。

小倉会長

なるべく紙を減らそうという姿勢が欲しいかなという気がいたします。他にも達成率が高いものでグリーン購入がありますが、グリーン購入しているからいいと満足しては駄目で、紙でも何でもできるだけ少なく使って、ごみをできるだけ出さないという努力やそういう方向性が大事だと思います。グリーン購入というのはすでに当たり前のことですので、それを目標に掲げるのではなく、次のステップに入って行かなければいけないと思いました。

事務局（山崎環境保全課長）

ペーパーレスの話ですが、実際に庁内の会議などではペーパーレス化が進んできております。今後こういった審議会でも、パソコンの準備ができるかどうか等、課題はありますが検討はしていきたいと思います。

谷合副会長

今日の午前中の会議ではパソコンやタブレット端末を持っていない方もおりましたので、そういう方への配布物ももちろん残してありますが、紙でもらったのは委員12人中3人でした。私を含む残り9人はタブレット端末やPCを持ち込み参加しました。

小倉会長

他にご意見はありますか。

岡本委員

先ほど風岡委員が質問された12ページの八千代市の降雨量ですが、八千代市は気象庁の雨量観測所はありません。あるとすると、水資源機構の大和田排水機場か消防署で観測しているかどうかですが、最近はものすごく雨の降り方が変わってきており、八千代市の雨量と言ってもものすごく地域的に小さいところで降っているのです、八千代市の雨量というのは非常に難しい状態が続いています。

雨域がものすごく小さいため、例えば市役所で降っていても新川を超えて勝田台では全然降っていないということも近年起きています。気温はいいのですが、同じ市内でもどこの観測所によってかで全く違うデータが出てきますので、雨量の扱いが非常に難しいと思います。

小倉会長

ありがとうございます。他によろしいですか。素朴な質問でも構いません。

高橋委員

先ほど話のあったバイオマス発電も無料でできるわけではなく、やはり費用がかかるものですので、どちらがいいか悩むところでもあります。根本的には、ここに来ている方の善と悪の判断基準はみんな微妙に違うと思います。これはいいと思う人とよくないと思う人がいて、その統一はなかなか難しいと思いますが、このプロジェクトが何年越しを考えているのか、次世代に向けてどういう取組をしなければいけないのかというところがわかると、もう少し別な角度で具体的なものになるのではないかと思います。

八千代市がどこまでできるかというのはまだわかりませんが、やはり小学校や中学校の教育の部分から変えていけば、長い将来としては変わるのではないかなと思います。

先ほどLEDに替えたという話がありましたが、今はスーパーや家電量販店に行くと普通にLEDがあって、それが当たり前のようになっています。そういう環境に対しての意見や考え方が当たり前になるには、これからですとスマートフォンやパソコンや通信の中で、色々なものを取り入れていけば変わってくると思います。

企業や市民が取り組むのがそれぞれどれぐらいのパーセントかはわかりませんが、一般市民の意識を底上げしていくには学校やマスコミ等使って少しずつ変えていった方がいいのかなと思います。

私は先月まで日本から離れておりましたが、この会議があることがわかっていたので、現地で50～60人の若い人たちにそのカーボンニュートラルに関してアンケート取ってみました。

名前は知っているが全くわからないと人がほとんどでした。八千代市ここ数年で多国籍化しているような気がしますが、多くの人と共存し考え方の違いを直していくためには、スマートフォンやタブレット、テレビ等でもう少し情報提供していく方法があるのかなと感じました。

小倉会長

ありがとうございます。

谷合副会長

この話は「八千代市第3次環境保全計画」の2ページに、実は全体像として書かれておりまして、計画の対象地域と対象期間についても書かれております。それから、9ページにはどういう方向性で向き合うのかということがまとめられており、この「ひと」「まち」「みらい」というのが1つの大きなコンセプトになっていて、10年計画の中でこの大きな3つの目標を実現していきましょうというところが全体像になっています。

併せて、27～28ページあたりはSDGsに絡めて、2030年に向け目標設定をしております。この計画を出した時には国の目標がまだ明確に決まっていなかったもので、少し数字がぼやかしてありますが、今回の改定で世界や国の動きに対応した八千代市の目標をある程度見える化をしていきましょうというステップにいると思っていただけたと思います。

事務局（竹内主査）

本来であれば事務局で説明しなければいけないことですが、ほとんど何も補足はありません。このような前提があつての「八千代市第3次環境保全計画」で、2050年ゼロカーボンに向けた中間目標の期間とSDGsの目標達成の10年間で2030年で一致した計画の作りになっております。

谷合副会長

この審議会は我々学識者、一般公募の市民、地元の産業界の人が入っているのが大きな特徴です。先ほど産業分野の二酸化炭素がなかなか減らしにくいという話がありましたが、千葉県全域の話としても産業分野の二酸化炭素減らしにくい状況です。一方で、経済的な部分でCSR活動や二酸化炭素の排出量をコントロールするというのは業務の中で必ずやらなければいけないこととなっており、そういう地元企業の取組を日常のお話で構いませんので、ご紹介していただけるといいなと思っております。

猪又委員

弊社、習志野化工株式会社というところですが、先ほどのペーパーレスは数年前から取り組んでおります。どうしても初期投資がかかる場所ではありますが、利益を追求する場所と環境に配慮する場所を両立すべく、何年ぐらいで元が取れるかというところに配慮しながら、シンナーや廃油の再利用も行っております。管理部門として、月並みなどにはありますが、ペーパーレスの取組については数値基準を設けています。また、市役所や公共施設よりは若干緩いとは思いますが、夏・冬のエアコンの設定温度についても呼びかけて意識改革をするよう取り組んでおります。

谷合副会長

八千代市も3つの工業団地を抱えています。工業団地ごとに業種の特性があり、工業団地ごとの協議会もあったかと思えます。本当は一企業の取り組みだけでなく、工業団地としてこんな取組をしているというのが、もっと一般の市民に知られるといいなと思っております。

八千代市は農業地域でもあり、ちょうどここにも農地利用の方がいらっしゃいますので、農業委員会でどんなことをやっているのか時々教えていただけたらありがたいです。

黒澤委員

ペーパーレスの部分では、農業委員会の会議ではまだまだペーパーが多いかなというのはあります。私が住んでいる地区は道路を1本隔てたら田んぼという地区ですが、ここに嫁いでき

た40数年前は、自宅の窓の網戸にほたるが止まっているという状態で、すごく感動したのを覚えています。いつ頃からか見られなくなり、里山という形で保全していかないとそのような環境がなくなってしまうという状態になったのは悲しいかなと思います。

農業地域のことで考えますと、やはり高齢化が進んでおりますので、田んぼなどができなくなるおうちが増え、それを少人数で負担するようになり、今までは手作業で草刈りをしていたものがどうしても除草剤等に頼るようになってしまいます。そうしないとどちらもやりきれないという、すごく重い現実があります。何とか法人化して遊休農地にならないような対策をということをやっておりますが、やはり何にしても高齢化という部分がとても大きく、法人を作ったとしてもそのメンバーがかなり高齢な人で構成されているといった辛い部分があります。

やはり農業地域には田んぼや畑が多いので、そこにほたるがいなくなってしまうということは多分大きなことなので、そういった部分にもっと力を入れられればいいかなと思います。

小倉会長

ご報告いただいたのは「八千代市環境経営レポート」で、市役所としてやってらっしゃることのお話だったわけですが、実際には市役所だけが頑張っても温暖化はどうにもならなくて、一般市民や農業者や事業系の人たちみんな、それぞれがやらなければいけないと思います。

それについては、来年度に色々出し合っていくことになると思います。次回までにぜひご意見等を考えていただき、出し合っていていただければいいかなと思います。

岡本委員

今のほたるの話は非常に衝撃を受けました。「八千代市第3次保全計画」の28ページ、ゴール15の陸域生態系の件について、先ほどいただいた「令和4年度『八千代市第3次環境保全計画前期アクションプラン』に関する調査結果」の9ページになりますが、3-2-(1)④では土木建設課の河川班と下水道課の計画班は丸や二重丸をつけています。両方とも「開発行為の場合」という縛りですが、どこの地域でも今まで地面に染み込んでいた雨水がそのまま下水管に流れてしまうと、いわゆる水資源涵養から外れてしまうということがあります。ここでは八千代市では補助金等もないと書いてありますが、河川班や下水道ではなく、環境部局でそういったことをやっているところもたくさんあります。

補助金を出すと、先ほどお話のあった工業団地には巨大な駐車場があるので、駐車場を透水性の舗装にしてくださいとか、色々なお願いを環境部局でできれば、ゴール15には役に立つのではないかと感じました。補助金がないとやらないという人もいるかもしれませんが、八千代市の大地は関東ロームで非常に透水性がいいところなので、浸透柵なんかも非常に効果が出やすいと思います。

そういったことによって、またほたるが出てくるようなところもあると思うので、何か少しでもやっていただけたらと思っております。

今回はテーマになっておりませんが、市街化調整区域の農地がたくさん宅地化されており、私の家の近くでも毎年何10戸単位で畑がつぶされております。市街化調整区域なので、当然下水道はありません。合併浄化槽にはなっておりますが、そういったところが非常に増えていて、これから大丈夫かなということも考えております。そういったことも含めて、計画等を作っていかなければと感じております。

小倉会長

ありがとうございます。最後はこの審議会の本当の目的という、環境全般に関する色々なご意見も出てきましたが、本日まだご発言いただけていない2人も発言はありませんか。

田中委員

私は水産会社におりますが、うちの工場から出てくる魚の頭を調味料に使っている工場がありまして、その工場が残念なことにそれを産廃として捨てていたことを研修で知りました。

それを回収して魚のえさにするという飼料化を行いました。工場としても年間でたくさん出ていた産廃が減ったということで喜ばれました。飼料にするにはヒスタミンの分析値がある程度低いものを使用しますが、劣化が進んでいるものだと今度は肥料になってきます。

農家さんでもすでに自宅に出ているものはすでにやってらっしゃると思いますが、スーパーなどで排出されるごみを分別して肥料化したものを、先ほどの資料にあった八千代市のお米をブランド化といったものを使って作ったみたいな話をすると、一般消費者にはすごくイメージが湧きやすく、小学生や中学生への指導としてもSDGsを身近に感じられると思います。

農業がさかんで用水路があり、カラスガイやほたるが昔からいたり、クワガタがいたりというのが八千代市のすてきなところで、かつ法人が多いので、これからのCO₂削減というのはすごく難しい課題だと思いますが、そういう相反するところを存続していくためにわかりやすいことがあると私みたいな一般人にはありがたいなと思い、そういう提案ができていったらいいのかなと思いました。

小倉会長

ぜひ来年度は、市民目線を発揮していただきたいと思います。市民はこういうのをもらってもちんぷんかんぷんだというようなご指摘をいただけると、いいものができるのではないかなと思います。

堀田さんはいかがですか。何かご感想でも。

堀田委員

先日、村上で断水がありました。スーパーには水がなく、2日間お風呂にも入れず、蛇口をひねったら真っ赤な水が出てくるというのが、こういうところでも起こることというのを感じてすごいショックでした。やはり普段から水等も自分で管理しておかないといけないなとすごく感じました。

小倉会長

私はこの審議会の他に上下水道局の委員もやっておりますが、八千代市は地下水が大部分で地産地消のお水です。値段も他の市や町より安く売っていて、味も地下水なので絶品です。そういう意味ですごく恵まれておりますが、どのくらい恵まれているかということをも市民の方たちが認識していらっしゃるかなと、村上のニュースを見た時に思いました。

堀田委員

給水車に並んでいる姿を見ると、八千代でもこういうことが起こるのかと感じました。

小倉会長

八千代市民は水の恵みを享受するだけでなく、八千代市の里山が印旛沼の水を養っています。八千代市は大げさに言えば「印旛沼の母」ということにもなるわけで、直接印旛沼に面してなくても、先ほどの話にも出たように浸透装置を作ってあちこちでもっと水を浸透させて、地面に蓄えるということは八千代市の責務でもあるかなと思います。普段は地下水について考えないかもしれませんが、八千代市のすごく大きな財産だと思います。温暖化やゼロカーボンはまだ電気のスイッチを切るだけでなく、生活すべてに繋がっていくようなものすごく広い範囲でやらなければ達成できません。生活の仕方次第では温暖化を助長することももちろんありますので、また次回以降、皆さんと一緒に考えていけたらいいかなと思っております。

最後の「その他」に進んでもよろしいでしょうか。お願いいたします。

事務局（竹内主査）

◆「(3) その他」に沿って報告。

・来年度の環境審議会は、計画等の見直し等の関係から、今のところ4回の開催を予定。開催時期の予定は記載のとおりだが、第1回を5月に予定している。日程調整等については、4月に入って体制が整ったら早急に行う。

・協定締結については、本市・大多喜ガス株式会社・東京ガス株式会社の3社でカーボンニュートラル実現に向けた包括連携協定を令和4年12月26日に締結した。具体的な取り組み等については今後検討していくということで毎月1回程度の協議を行っている。今後また進捗等出てきたらご報告させていただく。

・ほたるの里づくり実行委員会に関しては、平成10年に発足し25年を迎えた。3月11日に記念の集いということで、ビオトープの関係の基調講演・事例紹介、これまでの里づくりの歩みをご紹介させていただいた。

・昨年6月まで13年間にわたり環境審議会委員としてご尽力いただいた楠田隆氏に市政功労表彰ということで、昨年11月受賞があった。

小倉会長

ありがとうございます。

それでは、これで議長を退任させていただくということでよろしいでしょうか。ご協力ありがとうございました。

事務局（山崎環境保全課長）

小倉会長，議事の進行ありがとうございました。本日の会議で皆様からいただいた貴重なご意見，ご提案などにつきまして今後の参考とさせていただきます。

以上をもちまして，令和4年度第1回八千代市環境審議会を閉会いたします。長時間にわたりありがとうございました。